

魚津の教育

魚津市教育センターだより169号

令和4年12月 発行

魚津市教育センター

魚津市村木町1番21号

〒937-0053 TEL(0765)23-9161

「置かれた場所で咲く」力

経田小学校 校長 土開 晴美

9月17日、素晴らしい秋晴れの下、運動会を無事に行うことができました。今年度も昨年度同様、新型コロナウイルス感染対策のため、午前中だけの開催となりましたが、様々な競技や応援等を通して、子供たちのがんばりや成長が感じられ、大変よい運動会になりました。

この時期になると、私は毎年Aさんのことを思い出します。Aさんは、参加できる種目に制限のあるお子さんでした。私はこのAさんを5年生と6年生で担任したのですが、6年生に進級して間もなく、「私、運動会、何もできん。」と寂しそうにつぶやいたことを覚えています。

1学期が終わろうとする頃、6年生の子供たちは運動会に向けていろいろ準備を始めました。そんな中、Aさんは私に嬉しそうに言いました。

「先生、私、マスコットやってみる。これなら私にもできると思う。」

マスコットというのは、各団を象徴する絵を大きなパネルに描き、団席に掲示するものです。Aさんはマスコット製作なら、参加しても大丈夫と考えたのです。決意を固めたAさんの動きは素早いものでした。マスコット製作係になった友達と一緒に様々な情報を集め、デザインを決め、素晴らしいマスコットを作りました。このマスコットは応援リーダーをはじめとする子供たちを鼓舞し、結果としてAさんの団は、応援優勝を勝ち取ることができました。「おまえたちのおかげで勝てた。」Aさんの団の団長が、マスコット係に向けて言った言葉が今でも忘れられません。

現代社会において、価値観は多様化し、子供たちの背景も様々です。自分の置かれた環境の中でできることは何か考え、工夫し、実行したAさん。これこそが予測困難な時代を生きていく子供たちに必要な力の一つと言えるでしょう。

Aさんが小学校を卒業して十数年が経ちました。その後のAさんの消息を私は知りません。ですが、Aさんのことです。諦めず、工夫し、努力を重ね、自分の人生をたくましく切り拓いていってくれていることと思います。

高度化し、複雑化した社会の中で、私たち教員には多くのことが期待され、求められています。時にはそれを腹立たしく思ったり、諦めてしまいそうになったりすることもあります。しかし、こんな時だからこそ、私たち自身も、力を合わせ、諦めず、工夫し、努力を重ねていきたいと思うのです。



「子供に寄り添いながら」

清流小学校 佐渡 菜月

清流小学校に赴任してから8ヶ月、子供たちや先生方に恵まれ、学びの多い、とても充実した毎日を過ごしています。一方、私の思いがなかなか届かない子供に悪戦苦闘する日々でもあります。

学級のA児は、サッカーが大好きな、とても元気な男の子です。休み時間は、いつもたくさんの友達と汗を流しながら遊んでいます。一方授業となると、しばしば騒ぎ、学級のみんなに迷惑をかけてしまうこともあります。そんな彼に手を焼き、感情的に叱ってしまうことは一度や二度ではありません。そのたびごとに「こんな指導で本当によいのだろうか」と自問自答しています。

そんなある日、学級の男の子から「Aにいやなことをされている」という訴えがありました。「本当のことを話してくれるのか」という不安な気持ちになりながらも、「なぜそんなことをしたの？」などと、なるべくAの気持ちに寄り添うように話を聞きました。すると「あいつの気持ち、分かってなかった」と涙を流し、自分のやったこととわけを素直に話しました。「相手の気持ちがわかっているの。反省しなさい」などと叱らなくても、心に響く指導ができるのだと思いました。

私は教員採用試験の願書に「児童一人一人の声に耳を傾け、寄り添える教師になりたい」と書きました。自分が大切にしていることを思い出し、あらためて身の引き締まる思いです。今後も、子供たちや周りの人との出会いを大切に、子供一人一人に寄り添いながら学び続けていきたいと思っています。



「ここまでの充実した日々」

清流小学校 渡邊 直喜

4月に清流小学校に着任して3年2組の担任をしている。新しい生活と新しい学校への期待を胸に働いてきたが、やはり仕事に慣れることに必死で、たくさんの人の助けを受けながら、ここまで頑張ることができている。

校長先生をはじめ、先輩の先生方からこまめに声をかけてもらったり、学校での仕事や授業のことなど多くのことを教えてもらったりしている。私はこうした日々の生活に教師としてやりがいを感じている。そのやりがいは大きく分けて二つある。

まず、子供たちの成長を間近で見られることだ。4月当初、漢字を覚えることが苦手だった子供が、漢字の覚え方や勉強の仕方を伝えたことをきっかけにして、やる気をもって取り組むようになった。漢字テストで100点を取って喜んでいる姿を見たときは何事にも勝る瞬間だった。子供たちが日々直面する課題を解決して一歩ずつ成長する姿には力をもらっている。

次に、子供の成長や生活を通して、自らを省みて成長につなげられることだ。子供たちに「教える」ことがたくさんあるが、反面教えられることも多くある。「何かしようと思ったら積極的に行動を起こすこと」、「任されたことは最後までやり抜くこと」、「思いやりの心をもって生活すること」など、子供たちから気付かせてもらうことが多い。

これから教師としてたくさんを経験していくと思うが、今感じている気持ちを忘れないようにしたい。まずはこの後の半年間を、これまで以上に充実したものにできるよう頑張っていきたい。



「一つ一つの出会いを大切に」

よつば小学校

なかの すずな
中野 鈴菜

不安と緊張でいっぱいだった4月から、あっという間に半年が経ちました。少しずつ学校生活にも慣れてきて、子供たちと日々一緒に過ごせる喜びを感じています。

私が「教師になりたい」という夢をもったのは、中学校1年生のときでした。担任の先生が私たちと一緒に行事を楽しむ姿や、どんなことにも親身に向き合ってくくださる姿を見て、子供の成長を近くで感じられる教師という職業の魅力を感じました。今振り返っても、自分の小学校、中学校時代の出来事は鮮明に覚えています。その思い出が、「教師になりたい」という思いを常に支えていました。けれども、実際に教師になって子供たちの前に立つと、



思っていた以上に大変なことやうまくいかないことが多く、理想の教師像になかなか近付けないことに悩みました。それと同時に、これまでお世話になった先生方への感謝と尊敬の気持ちでいっぱいになりました。まだまだ力不足なことばかりですが、私が恩師と出会って夢をもち、その後の人生が変わっていったように、私も子供たちに何か少しでもよい影響を与えられる人になりたいです。そして、子供たちには一つ一つの出会いを大切に、多くのことを吸収して行ってほしいと思っています。

今は、何をすることも初めてで手探りの日々ですが、一緒に遊んだり何気ない会話をしたりする休み時間が、一日で一番楽しい時間です。授業では「一緒に考える」、休み時間は「一緒に楽しむ」、困ったときには「一緒に悩む」。常に「一緒に」という姿勢を大切に過ごしていきたいと思っています。

いつも、授業や生徒指導について丁寧に指導してくくださる周囲の先生方、そしてこんな私のことを「先生、先生」と呼んでくれる子供たちとの出会いに感謝し、目の前のことに精一杯取り組んでいきたいです。

「子供たちと共に成長する教師で」

よつば小学校

はまひら まりな
濱平 真利奈

よつば小学校に着任し、2年生の学級担任をしています。

私は、小学生の頃から友達に勉強を教えることが好きだったので、学校の先生になるのが夢でした。そして、教育実習で実際に子供たちと触れ合い、日々少しずつ成長していく子供たちの姿を目の当たりにし、「子供たちの様子をもっと間近で見たい」、「子供たちと共に自分自身も成長していきたい」と思い、教師になろうと決めました。



半年間、学級の子供たちと過ごす中で、印象に残っているのは、運動会の学級の目当てを決める話合いのときのことで

す。1学期のはじめの学級目標を決めるときには、自分の意見が思い通りに通らず、「こんなのやだ」と受け入れない子供が何人もいました。ところが、運動会ときには、互いの意見を認め合いながら、学級全体の目標としてどうしたらよいかを考え、1つの目当てを作っていく姿が変わっていました。自分のことばかりでなく、周りの人のことも考えることができるようになった様子に、子供たちの成長を感じ、とても嬉しくなりました。

また、思いもよらない考えをもつ子供に驚かされたり、子供たちの反応から指示の仕方や授業の進め方の改善点を見付けられたりと、毎日子供たちから学ぶことも多いです。失敗して申し訳ない気持ちになることもたくさんありますが、子供たちの素直さや元気のよさに何度も救われ、私自身も成長していることを実感できています。

今後も失敗したり悩んだりすることは多いと思いますが、先輩の先生方や子供たちからたくさん学んで、子供たちと共に成長していく教師でいたい。そのためにも、日々全力で子供たちに向き合っていきたいと思っています。

豊かな心を育む教育の推進の取組

魚津市立星の杜小学校

本校では、学校教育目標「心豊かに かしこく たくましく生きる子供の育成」に向けて、「安心して過ごせる学校・学級づくり」や「関わりを通じた思いやりの心の育成」等を重点目標とし、様々な活動に取り組んでいます。

【S S T (Social Skills Training)を通じた温かい人間関係づくり】

毎週1回、星の杜タイム(15分間)にS S Tの時間を設けています。学年の発達段階に応じた様々なシチュエーションの中で、どのような行動や声掛けをしたら相手がどんな気持ちになるのかを考え、友達と伝え合ったり、実際に試してみたりしています。普段はなかなかコミュニケーションをうまく取れない児童も、客観的に考えることで、よりよい関係をつくるにはどうしたらよいか気付くことができるようです。

【児童の主体性を生かした挨拶運動の推進】

企画委員が毎朝、児童玄関前に立って挨拶運動を行っています。企画委員の元気な挨拶に応じて、登校してきた児童も「おはようございます」と挨拶を返しています。2学期に入って挨拶を返してくれない児童が増えてきたと感じた企画委員は、週に2回、挨拶名人の紹介をすることにしました。

また、企画委員の「挨拶を広げたい」という願いにボランティア委員会が協力し、「あいさつボランティア」を募集しました。いろいろな学年から集まったボランティアが各階で活動することで、児童玄関だけではなく、至る所で元気な挨拶が聞こえるようになってきました。



あいさつボランティア

【縦割り班活動等を基にした異学年交流の推進】

星の杜タイムに縦割り班活動の時間を設けています。そこでは、6年生が考えたゲームをしたり、カード作り等の制作活動を行ったりしています。学年関係なく話をしたり、上学年は下学年に優しく教えたりと仲良く活動に取り組んでいます。

この他、清掃活動(週に2回)や行事(いもほり集会や校内ウォークラリーなど)も縦割り班で活動しており、異学年で交流する機会が多くあります。その中で児童は時には失敗をしながらも、思いやりの心を育てています。そのおかげか、休み時間には、グラウンドで一緒に鬼ごっこやサッカーをする姿も見られます。



ゲームの様子

【まとめ】

いずれの活動も子供たちの気付きや主体性を大切にしながら活動を進めています。児童と教師が一緒になって、これからも「豊かな心を育む」様々な活動に取り組んでいきたいと思えます。

研修の感想

情報教育研修会

7月26日(火) 参加者44名

講師 県総合教育センター科学情報部 主任研究主事 藤田 稔 先生 他2名

内容 「校務や授業における情報クラウドの基本的・効果的な活用」

- Teams で課題を出したりアンケートを作ったり回収したりできることを知ったので、2学期からの授業に生かしていきたい。
- 音読練習など低学年でも利用できるような Teams の使い方を知ることができた。
- 子供自身が行うクラウドの活用、協働編集等を学ぶ機会があればよい。

「とやま型学力向上プログラム」研修会

8月1日(月) 参加者31名

講師 上越教育大学教職大学院 教授 赤坂真二 先生

内容 「主体的・対話的で深い学び」を実現する学級づくり

- 学力向上というと点数アップに意識が行きがちだったが、根本である学級がまとまり一人一人の居心地がよい環境作りの大切さを実感した。
- 「子供たちがやる気になるような言葉をどれだけ浴びせられるか」という言葉が印象に残った。信頼関係を土台として、子供たちのやる気を高めていきたい。



郷土研修会

8月17日(水) 参加者21名

経路 米騒動発祥の地→万灯台→ふるさと先人ミュージアム→蛇石→東山円筒分水槽→埋没林博物館

講師 魚津埋没林博物館 館長 石須 秀知 先生・学芸員 佐藤 真樹 先生

- 子供たちに魚津のよいところをたくさん伝えて、興味をもってもらえるようにしたい。自分自身ももっと魚津のことを知って、授業に取り入れたり子供たちと会話したりしたい
- 普段なかなか自分の足で行くことができない所に行き詳しい話を聞けたので、充実した研修になった。東山円筒分水槽の水がないときが見られてよかった。



第2・3回若手研修会

7月29日(金)・8月18日(木) 参加者 初任～3年次 24名

講師 県総合教育センター教育相談部 客員研究主事 館野 智子 先生・研究主事 米澤 利子 先生

- 初任研でも同じ面談のワークをし、同じ悩みを話したが、全く違う印象を受けた。聞き手次第で話しやすさ等が変わってくると実感した。共感しながら対話することが、相手の思いを引き出すのだと分かった。
- 研修では、自分の学級の子供たちを思い浮かべながらどの活動なら子供たちのにとってよいのか考えることができたので、実践してみたい。
- 教師はプロだと思い込まされ、すごく気を張っていたが、「分からないから教えて」と言える先生でいいと思った。



■第59回 魚津市小・中学校科学展覧会

第59回魚津市小・中学校科学展覧会が9月23日(金)・24日(土)の2日間にわたり魚津埋没林博物館で開催されました。くふう創作の部、研究調査の部、標本・模型の部の3部門に、市内各小学校から46作品、中学校からは10作品の出品がありました。身近な疑問をテーマにしたものや日頃不便に感じていたことを解決するために具体化したものなど、見ていて楽しい作品や探究心あふれる見応えのある作品が多くありました。天候の悪い中、市内外から295人が来場し、作品を熱心に見入っていました。



◇ 魚津市教育委員会賞・富山県科学展覧会「中学校優秀賞」受賞



なかむら まさき
中村 昌樹
西部中学校 2年

テ
ー
マ
ラムネ笛からオリジナル
笛を作る Part 2

所見 昨年度の研究結果から発展し、笛の音を安定させる要素について3Dプリンタで様々な形の笛を作成し、音を計測しながら研究をしています。まずは仮説を立て、計測したデータを基に適切に考察をすることができています。展望で述べている笛の大きさによる影響や、吹きこむ息の風速と周波数の関係を研究し、理想のオリジナル笛づくりに挑戦していただきます。

声 Part 1で笛の音を変化させる要素を検討した結果を生かし、Part 2では笛の音を安定させる要素を探りました。取り扱うデータが多く、要素も複雑になったことで考察に苦勞することもありましたが、好奇心をもち続け、「吹き込み口の形」が音の安定に影響することなど、新たな発見を得ることができました。

しかし、疑問も多く残ったので、Part 3ではそれらの謎を解決し、オリジナル笛を完成させるよう多様な視点で研究に取り組んでいきたいです。

◇ 魚津市教育委員会賞・富山県科学展覧会「研究努力賞」受賞



さわ やま はるか
澤山 陽香
清流小学校 2年

テ
ー
マ
回れ！回れ！
わたしの風車

所見 1年生の時に家族で遊んだ風車の経験を基に、よく回る風車の作り方を見つけようと実験を進めています。「羽の枚数」「コップの大きさ」「羽の曲げる向き」「羽の形」の4つの条件を考え、条件ごとに丁寧に実験を繰り返して妥当性につなげているのがすばらしいです。めあてである一番回る風車をつくったことで満足感がもてる研究になっています。

声 わたしは一年生のとき、お姉ちゃんといっしょに風車を作りました。そのとき、お姉ちゃんの風車の方がよく回ったのでふしぎに思い、よく回る風車を作りたいと思いました。しらべてみると、「小さい紙コップ」「羽は8まい」「羽は多く曲げてカールさせる」と風車がよく回ることが分かりました。タブレットでどう画をとると、風車が回っているのをゆっくり見られておもしろかったです。同じ紙コップでも羽の数や形をかえることで回るはやさが変わってふしぎでした。いろいろじっけんして、よく回る風車を作ることができてうれしかったです。

◇ 魚津市教育委員会賞・富山県科学展覧会「研究努力賞」受賞



しみず さと
清水 彩桃
経田小学校 5年

テ
ー
マ カニの観察4
(2021~2022)

所見 これまで3年間継続した「カニのかんさつ」からさらに発展し、まだ見つけたことのないカニを探したいという意欲をもって観察を進めています。人間のように利き脚や動かしやすい脚すすみやすい方向があるのか疑問をもち、調査や観察を行い、たくさんのデータから考察している点がよかったです。

声 2年間で、カニにはききあしがあるかを調べました。魚津の海岸に多く生息するイソガニを手作りのレーンに放し、左右どちら側に進むかを調べました。動きやすい方向は特に決まっていませんでしたが、一匹ごとに動き方に個性が見られました。また、氷見で行った海岸調査で見たキンセンガニは水中を泳ぎ、コノハガニは前に進みました。種類によってあしの動きがちがひ、おもしろいと思いました。カニは、生息場所の環境にうまく適応していることが分かりました。

◇ 魚津市教育委員会賞・富山県発明とくふう展「県教育委員会教育長賞」受賞



たかしま さと
高嶋 将人
道下小学校 1年

テ
ー
マ かんたんパチッ！
リュックがぬれないかさ

所見 雨が強い日でも、リュックがぬれない傘です。ビニールカバーに付いている磁石と傘に付いている磁石の色が対応しているので、誰でも簡単にカバーを取り付けることができます。また、強力磁石を使っているため、雨が強い日でもとれません。

声 ぼくは、雨が強い日にリュックがぬれないように守ってくれるかさがあればいいなと思って、このかさを作りました。くふうしたところは2つあります。1つ目は、強力磁石をつけることで、風の強い日でもかんたんにビニールカバーがとれないようにしたところです。2つ目は、かさとビニールカバーについている磁石の色をそろえて、だれでもすぐに磁石をつけることができるようにしたところです。ぼくは、雨の日にこのかさをいろいろな人につかってほしいです。

◇ 魚津市教育委員会賞・富山県発明とくふう展「魚津市長賞」受賞



はら かいと
原 快斗
道下小学校 3年

テ
ー
マ かさ立てザウルス

所見 荷物が多くて手で傘を持つことができなくても、ランドセルに傘を固定できるので、ぬれずに歩くことができるすぐれものです。マジックテープで固定するので、装着も簡単です。日常生活から生まれた発想を生かして、具体物に仕上げたことがすばらしいです。

声 ぼくが「かさ立てザウルス」を作ろうと思ったのは、たくさんの荷物を持って帰る時に雨がふっていて、かさが持てないことがあったからです。こんな物があつたらいいなと思い、リュックのベルトの部分に、かさを立てられるところを作って、かさを持たずに歩けるようにしました。くふうしたことは、ランドセルのあまったきじを再利用して使ったことと、マジックテープでかんたんに取り付けることができるようにしたこと。「かさ立てザウルス」を使って、雨の日でも安心して荷物を運べるようになればうれしいです。

◇ 科学展入選者のみなさん ◇

氏名	学校・学年	テーマ
あるが 有賀 ゆり	よつば小学校・1年	水辺の調査
かわぎし かける 川岸 駆	清流小学校・2年	ドアを開けばなしたと教えてくれるマシン
くつわだ ちひろ 轡田 智広	よつば小学校・2年	海の宝さがし～シーグラス・貝をあつめよう～
かわしま あや 川島 彩	清流小学校・2年	化石はっくつ！
のぶやま ゆうと 延山 悠人	道下小学校・4年	美しいロンダートめざしてがんばるぞ！
うら もえか 浦 萌華	道下小学校・4年	わが家の生ゴミ調査
つじむら なおき 辻村 尚暉	清流小学校・6年	新聞ワゴンカー
なかむら ひなた こはる 中村 日葵・向春	よつば小学校・6・4年	ふしぎ？おもしろい！！イロいろPH
なかしま みひろ 中島 未尋	西部中学校・2年	手袋速乾ハンガー
みなと や ゆうか 湊谷 優花	西部中学校・2年	酵素の力 Part 3

※入選者の作品は魚津市教育センターのHP(<http://www.uozu-c.tym.ed.jp> 各種事業>科学展覧会)でご覧になれます。

■ 令和4年度 全国中学校体育大会

中学3年生は入学当初からコロナ禍の影響を受け、制限を受けながらの部活動で、練習時間も十分にとれない中で、必ずしも納得のいく結果を出せなかったと思います。それでもそれぞれがルールを守り、今のもてる力を発揮できたのではないかと思います。

◇ 陸上競技 (福島市 とうほう・みんなのスタジアム 8月20日)

1500M走予選3組 14位〈記録 4分25秒06〉 高森 はる 西部中学校 3年



声 僕は中学生になってから、陸上競技の全国大会出場を目標に練習に取り組んできました。3年生になると全国大会に出場するだけでなく、そこでよい結果を残したいという思いが強くなりました。全国大会出場をかけた最初のチャレンジだった県選手権大会での1500m。結果は、4分9秒11。標準記録まであと0.61秒のところでお出場を逃しました。最後のチャンスである通信陸上大会での記録は4分8秒33。全国大会への出場が

決まったときは、目標に一步近づいたうれしさと、これまで練習をがんばってきたという思いがこみ上げてきました。

大会当日は、人生で初めての全国大会なので楽しみでした。大きな会場でたくさんの人たちが意気込んでいるのを感じ、これまで味わったことのない緊張で足が震えていることに気づきました。レースが始まると、何も考えず、夢中で走りました。後で振り返ってみても、走っているときのことをほとんど覚えていません。結果は、納得のいく走りができず、悔しい思いをしました。

全国大会という大きな舞台で、自分の力を最大限発揮することの難しさがよくわかりました。今回は自分のいつもの走りができず、良い結果とは言えませんでした。しかし、この経験は必ずこれからの人生に生かせると思うので、無駄にせず、次につなげていきたいです。

■第43回 北信越中学校総合競技大会

◇ ソフトボール競技 (長野県伊那市美すずスポーツ公園運動場他 8月2・3日)

3位 東部中学校 1回戦7-6(栗野) 2回戦8-0(高社) 準決勝1-8(森本)



選手	狩場 すす	富居 向日葵	高島 来歩
	古金 美紅	常楽 優香	仲俣 美羽
	岡本 佳実	窪田 綾乃	尾谷 いえ菜
	武田 芽愛梨	内生 蔵虹佳	木下 玲奈
	佐々田 柚依	谷口 弥生	仲俣 萌衣
	長谷 柚菜	川島 望月	金和 姫良
監督	水島 智美		

声 ソフトボール部部长 富居 向日葵

「県選優勝、北信越ベスト4」を合い言葉に、部員全員が一丸となり、練習に取り組みました。試合を重ねるにつれ、チーム力は増し、チームワークも強固になっていきました。県選では1回戦から自分たちのペースで戦うことができ、優勝することができました。

北信越大会では、部員全員の参加はできなかつたけれど、心一つに戦いました。緊張感に包まれ迎えた初戦の相手は、福井県3位の栗野中学校でした。先取点を取ったもののすぐに逆転され、その後はお互い点を取ったり取られたりの白熱した展開になりました。1点リードで迎えた最終回ツーアウトランナー一塁。相手打者の打球はセンター前に。二塁は間に合わないとみんなが思った瞬間、センターが一塁に矢のような送球をし、ゲームセットとなりました。チーム全体が緊張と焦りから歓喜に変わりました。2回戦は長野県2位の高社中学校に8対0のスコアで勝ち準決勝に進み、昨年優勝の石川県1位の森本中学校と対戦しました。あと一勝で全中でしたが、攻守に圧倒され、あっけなく終わってしまいました。悔しさと悲しさとやりきった感が入りまじり、涙が止まりませんでした。

全中に行けなかつたことは悔しかったけれど、今は目標を達成できたことと部員19人全員心一つにやりきれたことの喜びでいっぱいです。同時に部長として役割を果たせたことにほっとしています。高校でも競技を続け今度こそ全国大会に出場したいです。

◇ 水泳競技 (長野運動公園アクアウイング 8月5日)

男子 50M自由形 7位 (記録 25秒50)

よしむら きよと
吉村 清人 西部中学校 2年

男子 100M自由形 10位 (記録 56秒44)

女子 100M背泳ぎ 12位 (記録 1分11秒46)

さいとう ゆずは
西塔 柚琶 東部中学校 3年

◇ 陸上競技 (長野市営陸上競技場 8月3日)

男子共通1500M 14位 (記録 4分22秒92)

たかもり
高森 はる 西部中学校 3年

男子共通3000M 16位 (記録 9分59秒91)

むらせ ゆうと
村瀬 悠人 西部中学校 3年

◇ 新体操競技 (上田市自然運動公園総合体育館 8月3日)

女子個人 9位 (総合得点31.1(クラブ14.0リボン17.1))

うみの ゆき
海野 有紀 西部中学校 3年

◇ 卓球競技 (安曇野市総合体育館 8月4日)

男子個人 尾崎 永和 西部中学校 3年

1回戦3-0(寅松・川北) 2回戦0-3(高橋・本丸)

濱多 佑杜 西部中学校 3年

1回戦0-3(北井・金大附)

女子個人 森網 ちひろ 東部中学校 1年

1回戦0-3(橋本・春江)

◇ 剣道競技 (長野県立武道館 8月5日)

男子個人 八田 健太郎 東部中学校 3年

1回戦0-1(川崎・松代)



■第60回 富山県中学校総合選手権大会

◇ ソフトボール競技

1位 東部中学校 1回戦 8 - 1 (新湊南部) 準決勝 14 - 4 (呉羽) 決勝 8 - 1 (庄西)

◇ 陸上競技

共通男子1500M走 2位 〈記録 4分09秒11〉
共通男子3000M走 2位 〈記録 9分19秒15〉

高森 はる 西部中学校・3年

◇ 新体操競技

女子個人総合 3位 〈総合得点35.650(クラブ18.350リボン17.300)〉

海野 有紀 西部中学校・3年

◇ 卓球競技

男子個人 3位

尾崎 永和 西部中学校・3年

◇ 水泳競技

男子50M自由形 2位 〈記録 25秒76〉
男子100M自由形 3位 〈記録 56秒12〉

吉村 清人 東部中学校・3年

女子100M背泳ぎ 3位 〈記録 1分10秒58〉

西塔 柚琶 東部中学校・3年



■第25回 関東・東北・北信越少年新人軟式野球大会

(栃木県総合運動公園野球場 11月25・26日)

3位 東部中学校 1回戦 9 - 2 (前橋粕川) 2回戦 2 - 1 (鹿沼東) 準決勝 1 - 9 (東京修徳)

